平成 30 年度学校評価　自己評価書

2019（平成 31 年）3月
学校法人高橋学園
千葉学芸高等学校

1．学校教育目標

〈1〉建学の精神と教育目標

建学の精神「 創 造 」
教育目標　1．心の創造　強い精神力と思いやりの心 2．智の創造　知性と判断力 3．美の創造　感性と技芸

建学の精神

建学の精神は私立学校にとってその教育の最も根幹となる目標を示すものであり、すべての教育活動を建学の精神に位置づけて行われる。千葉学芸高等学校では、建学の精神「創造」のもと、美しい人類文化の創造にあたる実力を備えた人材の育成を図る教育活動を展開する。

教育目標

教育目標は、建学の精神「創造」の具現化のため、心・智・美の観点から獲得を期待する知識技能能力の内容を示す。

心の創造においては、物事への集中や忍耐のできる強い意志を備えつつ、優しい思いやりも併せ持つ人間性の涵養を図る。

智の創造において、知性を磨き、知識を蓄積するのは正しい判断のできる理性を備えるためである。

美の創造においては、美しいものを美しいと感じ、それを言葉や身体で美しく表現できる能力や技能の獲得を図る。

〈2〉教職員および生徒の行動目標

教育目標の実現のため教職員は、以下の信条のもとに教育活動にあたる。

《職員の信条》
(1) 建学の精神を生かし、日本人の特性と校風を高揚せん
(2) 自己の誇りと責任を自覚し、全機能の発揮に当たらん
(3) 親和・協力の心を基とし、内容の充実を求めん
(4) 良き社会人たる素質を磨き、生徒の進路に万全を期せん

生徒は、以下の誓いのもとに学校生活の充実を期す。

《誓いの言葉》 （１） よい伝統と、よい校風をつくります （２） はつらつとした若さで学力・技能を磨きます （３） 愛敬の心を生活に表します

また、以下の学年目標に沿って自己の研鑽・向上を図る。

１学年の目標	《自学》 私たち１年生は、次の目標をしっかりと実行して進みます。 （１） 高校生としての礼法・言語・動作を立派に築きます （２） 友情・協同の精神を発揮します （３） 自信の持てるまで努力いたします
２学年の目標	《充実》 私たち２年生は、学校の中心となり、充実した学年を築きます。 （１） 自分の将来の方針をたて、目標達成のために根強い努力をします （２） 愛校・友情の精神を一日の生活に表します （３） 自信の持てる力と人格を築きます
３学年の目標	《独立》 私たち３年生は、自分の将来の方針をたて、最高学年として人格を磨き、よい社会人となります。 （１） 全校のよき指導者となります （２） 社会にたつ一切の準備をいたします （３） 自己の誇りと責任を自覚し、協力貢献を実践します

〈3〉年度目標

以上を踏まえて、平成 30 年度の目標を以下のように設定した。

平成 30 年度学校目標　『学びの変革期』

Ｏｎｅ　Ｕｐ（ワンナップ）は「ひとつひとつスコアアップを図ること」。

千葉学芸高校として 19 年目。本年度のスローガンは「学びの再発見」とした。

2018 年から、高校生の学びの大きな変革が開始される。３月に新しい高等学校学習指導要領が発表され、2022 年の入学生（現在の小学６年）から実施される。小学校は 2020 年から、中学校は 2021 年から全面実施となる。日本の教育は戦後最大の大きな変革期を迎えており、高校と大学の接続改革として大学入試がセンター試験から大学入学共通テストに変わる。2021 年１月の大学入試で、現在高校１年生の学年が対象となる。また、全国版の実力テスト「高校生のための学びの基礎診断」が 2019 年度に新設される。これは 2022 年の大学入試からＡＯ入試の判定に使われるものとなる。

これと平行して、Ｅポートフォリオが始まる。高校生の学びの課程を文部科学省の WEB サイ

トに記録して、大学入試の出願時に大学に提出するというもので、現在の高校１年生が大学受験をする際に必要となるものである。

こういった動きについて、まだほとんどの高等学校では対応されていないが、本校ではすでに２年前から準備をしており、Ｅポートフォリオの活用も 2018～2019 年の２年間をかけて本格運用していく予定である。生徒にとって手遅れとならないように、最新の情報を入手し、対策を整え、最新のシステムを活用して対応する。

新学習指導要領では、「学ぶとはどのようなことか」「知識とは何か」といった研究から、『人生を主体的に切り拓（ひら）くための学び』が、21 世紀の学びの姿として浮かび上がってきた。学校から社会へとスムーズにつながっていくためにも、高校生までに身に着けておくべき資質能力が明確になる必要がある。そのため、学ぶべき資質・能力が３つの柱で整理された。

１）「何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）」
２）「知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）」
３）「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）」

これらは、「生きる力」と呼ばれる人間力の要素でもある。教科の学習はもちろん、学校行事などの体験や、クラブ活動で養われる趣味や豊かな人間性、コミュニケーション力など、総合的な実力が、学校での学習活動の中で育まれるように工夫し、実力を伸ばすチャンスをたくさん設定することとし、さまざまな活動にチャレンジをし、実力を磨く活動を行う。

2019年には皇位継承により平成が終了し、2020年には東京オリンピックが開催される。

教職員にタブレット端末を配布し、授業と校務分野での活用を開始して４年目となる。ベネッセ社の学習支援システムClassi（クラッシー）を生徒対象に導入し、実力テスト（基礎学力テスト）の誤答分析をもとに苦手単元のEラーニング動画教材を提示するなど、学習を支援するシステムを運用している。

2007年から導入したＥラーニングは、新たにベネッセの学習動画（２万本）を基本とし、リクルートのスタディサプリ４万本を受験対策として進学コース及び希望者に追加導入した。いずれも特別割引価格で生徒に提供する協定を結んでいる。小学校４年の算数から大学受験まで幅広くカバーするＥラーニング体系となった。

施設設備面では、第１コンピュータ室のＰＣと関連するネットワーク機器の更新を予定している。文部科学省の補助金を活用するものである。また、老朽化したマイクロバスの更新を行う。

上記目標に主眼をおきながら、人格形成・コミュニケーションの充実、学力向上・技能獲得向上・資格取得、進路開拓などを目指して教育学習活動にあたる。特に特性の伸長、人間性の育成、技能教育を重視し、色彩教育、情報教育、福祉教育、環境教育、国際教育などに関連する授業や学校行事、クラブ活動などの諸活動の展開・充実を期す。

2．学校の概要

学校法人高橋学園　千葉学芸高等学校
〒283-0005 千葉県東金市田間 1999 番地
TEL　0475-52-1161
FAX　0475-52-1163
インターネット　http://www.cgh.ed.jp/
電子メール　info@cgh.ed.jp

平成 30 年度　学級数・生徒数	１学年	５学級	１９５名
	２学年	４学級	１６０名
	３学年	４学級	１５３名
	全校	１３学級	５０９名

学校の概要については、インターネットホームページで公表。また、コースガイド、創立 130 周年記念誌等の冊子にて紹介している。

3．各部門の活動内容・活動状況（学校要覧）

学校の特色，および以下の事項等については、平成30年度学校要覧（冊子全７４頁，関係者向け５月刊行）に記載。

・学校施設・設備、校舎面積
・学校行事の内容
・生徒会活動の内容
・クラブ活動の内容
・教職員の担当学年、担当教科、校務分掌、授業の持ち時間数、所持免許状の種類
・校内研修の内容
・学習指導（授業時数、時間割、総合的な学習の時間の内容）
・学籍・出欠席統計
・生徒指導上の諸問題及びそれに対する学校の対処や指導の状況
・進路の状況
・安全管理・保健管理（保健安全、防犯対策、防災対策）
・各部門の予算執行状況
・父母の会活動状況、地域との連携等の状況

4．自己評価（平成30年度）

A．全般の評価

（1）評価

全般評価：良好

（2）課題と改善策

全般に関わる特に重要な課題として、生徒募集および学力の向上の２つを取り上げる。

次に、平成30年度のトピックとして、施設設備の整備状況を述べる。

生徒募集状況の課題

平成30年度の新入学生徒数は前年＋24名であり、前年・前々年の＋37、+43名に続き増加をみた。近郊の中学卒業生数が減少する中で、東金高校の１学級減があったが、近隣公立高校の定員は過剰気味で厳しい状況が続いており、私学の定員割れが続き環境が悪化する中でも広報部を中心に生徒募集の努力をした結果であり、募集定員の７割程度であるが、増加を図った努力の成果があった。印旛地区・山武地区の中学校長を経験した広報担当職員に加え、印旛地区から県中学校長会長経験者を広報部に迎えて、若手広報人材も経験を積み熱心に活動した成果である。千葉市などからの志願者入学者増が好材料となっているほか、野球部の館山・松戸など広範囲からの生徒募集も奏功した。

平成３１年度の生徒募集では、公立学校の入学定員について、山武地区では中学校卒業者数の減少と、累積的な過剰枠（＝私学の未充足枠）に対応し５学級程度の削減が必要である。これに対し、千葉市など周辺地域における定員削減はあったものの、山武地域の定員削減は０で、非常に厳しい状況であったが、本校平成３１年度入学者は前年＋5名、2.5%増の200名（募集定員の７１％）を得た。平成３１年度入学生の生徒募集では、年度途中で広報担当職員の公立中学校長経験者が3名から2名に減じたが、依然厳しい状況下ながら増加を図ることができた。授業料減免制度や、公務員コース、福祉コース、芸能コース、ロボットをはじめとする情報化施設設備活用、野球部・吹奏楽部の強化などの取り組みが魅力を高めたことが生徒増に貢献したと考えられる。また千葉県私学教育振興財団の協力のもとで新たに設けた入学資金貸付制度も14名が利用し好評であった。

本校の在学生の教育向上・進路状況は良好であり、困難な生徒募集状況は近隣公立学校定員過剰・公私学費格差等の外部要因によるものが主である。公立高校の募集人員増減により直接左右される状況は脱していく必要があり、受験生から選ばれるための魅力を一層高める必要がある。生徒募集の拡大のためには、内容の充実、広報・ＰＲの工夫等の自己対処方策の充実発展により改善を図っており，授業料減免制度や奨学金制度の周知により私学を敬遠する意識の解消にも努めている。その結果、新入生では約６割が授業料減免制度を利用するなど、公私学費格差を乗り越える状況が生まれつつある。

今後も、環境悪化にも耐える体質改善を図るとともに、一層の広報努力によって生徒獲得を展開しなければならない。中学校教員も世代交代しており、本校ならではの数々の優れた特質について、中学校現場で十分には知られていないことが懸念される。より丁寧でわかりやすい広報が必要であり、広報活動の質的量的改善も図っていく必要がある。県教委の動向を注視し、展望をもって取り組んでいきたい。

学力の向上

10年前から言語表現力の向上に取り組み、国語科および学年会による漢字学習指導、作文指導、全校漢字学力テストの複数実施、校内漢字検定を継続している。常用漢字の書き取りについて、個々の生徒の繰り返しの学習成果は着実に現れ、作文でもほとんど漢字が書けなかった生徒が、適切な漢字かな交じりで文章を書けるようになるなどの効果が生まれた。基礎学力を身に付けたことに自信を深めた生徒が他の学習に意欲的に取り組む姿もみられ、教師による学習の働きかけと継続的な指導が奏功している。校内文芸コンテストも第５回を迎え、年間を通じて授業課題などで提出された作文や文芸作品から選ばれた優秀作品も質的に向上をみた。

学力上位者については、朝夕の特別学習講座に加え、ｅラーニングビデオ教材を活用して特別進学に対応する学習に取り組み学力向上を図った。城西国際大学・東京理科大学・千葉工業大学・日本大学をはじめ多数の指定校推薦枠を得ているほか、難関私立大学や大学入試センター試験を経て国立大学に挑戦するレベルの生徒もあり、進学コース設置の効果が現れつつある。

近年は看護学部・看護学校への進学も多く見られる。理学療法を専攻するものもあり、医療福祉系に伸びがみられるので、推薦制度も活用しながら今後も拡大を図りたい。法政大学・日体大などにースポーツ推薦で進学があった。

施設設備の拡充

（１）マイクロバスの更新

新型のマイクロバスを導入した。これまでのマイクロバスについては、部員増加による野球部での利用ニーズがあることから保有を継続することとし、増車となった。これにより輸送力が増強された。

（２）コンピューター設備の更新

第1コンピュータ教室の機器を更新するとともに、校内ネットワークの基幹（バックボーン）を１ギガビット／秒から１０ギガビット／秒の設備に更新し、大容量化する学習映像の増大に対応できるものとした。高速で安定している全校無線LAN環境とともに、外部インターネット回線も２ギガ×２と１ギガの合計5ギガビットを備えて非常に強力なネットワーク環境を整えた。

またコンピュータ部にEスポーツチームが立ち上がり、活動を始めたことから、Eスポーツに対応する機器の整備も行った。

（３）中庭の整備

学生食堂に隣接したビロティ中庭部分に帆布の開閉式の屋根を取り付け、雨や夏の日差しを除けて食事や休憩の取れるスペースとして整備した。昼食時に利用されるほか、学園祭時のレストランのテラス席としても活用された。

Ｂ．部門ごとの評価　（学校要覧に記載）

5．学校関係者評価

学校運営会議開催（７月）。

保護者（５月）および生徒（２月～３月）にアンケートを実施した。

以　上